

## シューベルトの歌曲集「美しき水車小屋の娘」〔7〕 —歌手とピアニストの為の演奏と解釈—

野々垣 文 成

### I、はじめに

このシューベルトの歌曲集「美しき水車小屋の娘」の歌手とピアニストの為の演奏と解釈については2004年より取り上げている。歌手とピアニストはあくまで演奏自体で評価されることが通常であり、演奏の内容を文字化することは稀である。しかし演奏家の参考の一端を担えればとの思いであえて執筆している。今回は20曲中、最後の3曲の演奏と解釈を論じた。

### 第18. しおれた花

第18番「しおれた花」はこの歌曲集の中以外でシューベルト自身がこの主題を使い〈しおれた花〉による主題と変奏を作曲している。この曲はフルートとピアノの為の二重奏曲である。声の旋律をフルートに置き換えこの曲の情感を吐出させている。声とフルートとの共通性をシューベルトはこの曲に見たのであろう。ピアノ五重奏曲〈ます〉と同系列の作品といってもいいであろう。もちろん他の作曲家が、特にリストであるが多くのパラフレーズを作曲していることはもはや周知のことであろう。では本論に入ろう。この歌の中で若者は水車小屋の娘がくれたしおれた花について語っている。その花はこれから若者が入る墓の中に入れる。その花は若者の涙で濡れているが再び元のように咲くことはない。それは若者の恋の様に。若者が第13曲「リュートの緑のリボンで」以来絶望するのを聴衆は嫌というほどに見てきた。実際にヴィルヘルム・ミュラーの詩にはこの第18曲「しおれた花」の前に「かわいい花、勿忘草」という詩節が入っていたらしい。シューベルトは第13曲目からの悲痛なまでの絶望を表現し続けて、ここであえてさらなる絶望を組み込むことの必要性を感じなかったことはさすがに天才の持つ力量であったと筆者は感服している。なぜなら同じ悲痛を繰り返してもくどさだけが残り芸術性を

損なっていくと考えられる。曲の冒頭は切れた和音で始まっている。(譜例1) テンポはZiemlich Langsam (かなりゆっくり) となっているが実際にはSehr Langsam (大変ゆっくり) であろう。♩=42位になるであろう。歌詞は“彼女のくれた花を全部僕と一緒に墓に入れてくれ。花は僕がどのような目にあつたかを知っているように悲しげに僕を見ている。どの花もなんとしおれていることか。なぜにこんなに湿っているのか”と歌っている。演奏者は葬送の如くのテンポで(足を引きずる感じで)揺らさずに、動きを乱さずに厳格に演奏したい。しかしあくまで演奏がぎくしゃくしてはならない。できる限りのレガートである。ごく単純な形で作曲されているのだがピアニストを悩ませる問題を多くはらんでいる。この様な音型はただ単純に音を鳴らせばよいのではなく腕の脱力を十分にし腕の重みで自然に振り下ろすテクニックが必要である。ピアニストの多くはテクニック的策略を練ることは得意であると思うが、無防備でしかも自然の音楽をかもし出す方法については多くは知らない。このテクニックは“Tropfen”(ぼたぼた落ちる) といって水や涙が自然に落ちる様に演奏する方法である。拍子の中での奏法で音楽そのものに息吹きを与えなければならない。しかし花はしおれていることをピアニストは決して忘れてはならない。メロディーはそれに反してmolt legato (大変なめらかに) に歌いだす。(譜例2) ピアノパートとメロディー線の融合はここでは極めて重要である。メロディーは付点8分音符、8分音符と16分音符と3種類の音符のみで構成されているがどの音符も丁寧に音符いっばいの長さを保って正確に歌わなければならない。そうすれば自然にピアノパートとの融合は図れるであろう。前半のe mollの部分のどこかしこに現れるメロディー線(譜例3・)の歌い方は歌詞と同等の扱いで“重い・軽い・重い・軽い”

を忠実に繰り返すべきである。ペータース版（譜例3）では記載があるがベーレンライター版（譜例4）では記載がないので歌手は細心の注意を払わなくてはならない。第14, 15小節目では（譜例5）突然音楽が止まったように錯覚を起こす。テンポは全く動じていないのだが聴衆にはあたかも rit.（だんだんゆっくりと）が掛かっているように感じる。“Wovon so naß”（なぜそんなに濡れているのか）のという内容を自問している形を音符でシューベルトはうまく表しているのである。この自問の答えはピアノパートが引き受けている。この一瞬の出来事を契機に再び同じメロディーを自然な形で歌いだすのである。第27, 28小節目（譜例6）は前述の第14, 15小節の変形であると思う。詩は“die Blümlein alle, die sie mir gab”（彼女が私にくれた花すべて）であるが最高音fis（#ファ音）で“sie”（彼女が）を歌っている。これは前述の第15小節の“naß”（濡れる.）とは全く悲痛さが違う。シューベルトの意図はかなりはっきりとした形で表現されている。後半部分に移ろう。ここで曲は同主調Edurに転調している。（譜例8）ピアノパートは前半とは打って変わって軽く躍動的である。それは若者の魂が仮死からの再生を果たしているかのようなのである。しばんだ花は再び色づき、闇に一筋の光が差し込み失恋した若者の心に来るはずのない春がにわかになってきた様子である。この後半を支配しているピアノパートのリズムの一つは（譜例7・)の部分である。このリズムが春の訪れと若者の歩

く軽やかさの象徴であろう。第18曲全体支配しているリズムとして前半（歌声部）ですでに述べたように後半の左手のピアノパートのメロディー線（譜例8）のバスとソプラノパートの付点も十分に音をち保って演奏したい。第37小節目の2拍目、第28小節目の1拍目の2拍間のリズムは“der Mai ist kommen, der Winter ist aus”（冬は去り、5月が来る）と歌っているように若者の気持ちを無理に奮い立たせているいるのだが、それを信じている若者の純真な心の描写と重なる。第30小節からの若者の心の高揚は（譜例9）第37, 38小節に向かって徐々に進めていく。決して最初から激しく高揚した演奏は避けるべきである。なぜなら曲の終わりにはまだまだ時間がかかるからである。第39小節から第46, 47小節までは第30小節目からの繰り返しであるが若者の心の葛藤とそれに対する激情の推移として2度繰り返しているのも単純に考え演奏してはならない。しかし音楽は美しく清純であることは聴衆には何の説明をしなくても感じ理解できるであろう。そして聴衆の胸を深く揺さぶる。そして短いコーダともいえる第48小節目から第51小節目（譜例10）までの曲の頂点に結びつけるように演奏したい。歌手は（若者本人は）このクライマックスを歌い切ると後奏もそれに伴って後を引き継ぐのだがたった2小節で聴衆を“しおれた花”の最初のイメージに連れ戻している。再び短調の（e moll）に戻り絶望の底に戻っていく。（譜例12）

〔譜例1〕



〔譜例2〕



[譜例 3]

*Ziemlich langsam.*

Ihr Blüm-lein al-le, die sie mir gab, noch  
soll man le-gen mit mir ins Grab. Wie seht ihr al-le mich an, so weh, als

[譜例 4]

*Ziemlich langsam.*

Ihr Blüm-lein al-le, die sie mir gab, noch  
soll man le-gen mit mir ins Grab. Wie seht ihr al-le mich an, so weh, als

[譜例 5]

Blüm-lein al-le, wo von so nah

[譜例 6]

27

Blümlein al-le, die sie mir gab!

シューベルトの歌曲集「美しき水車小屋の娘」

〔譜例 7〕

Musical score for Example 7, piano accompaniment. It consists of two staves: a treble clef staff and a bass clef staff. The key signature is three sharps (F#, C#, G#) and the time signature is 4/4. The piece is marked with a tempo of 30 and a dynamic of *fp*. The music features a steady accompaniment with chords in the right hand and a rhythmic bass line in the left hand.

〔譜例 8〕

Musical score for Example 8, piano accompaniment. It consists of two staves: a treble clef staff and a bass clef staff. The key signature is three sharps (F#, C#, G#) and the time signature is 4/4. The piece is marked with a dynamic of *fp*. The music features a steady accompaniment with chords in the right hand and a rhythmic bass line in the left hand.

〔譜例 9〕

Musical score for Example 9, including vocal line and piano accompaniment. It consists of three systems. The first system shows the vocal line in a treble clef staff with the lyrics "Und wenn sie wau-delt am Hü-gel vor-ber und" and the piano accompaniment in two staves (treble and bass clef). The second system shows the vocal line with the lyrics "denkt im Her-zen, der weinet es treu! dann Blüm-lein al-le, her-" and the piano accompaniment. The key signature is three sharps (F#, C#, G#) and the time signature is 4/4. The piece is marked with a tempo of 30 and a dynamic of *fp*.

30  
aus, her-aus, der Mai ist kom-men, der Win-ter ist aus.

*fp* *fp* *f* *pp*

[譜例10]

Blüm - len al - le, her - aus, her-aus, der Mai ist kom-men, der  
Win - tes ist aus.

*f* *fs*

〔譜例11〕



19. 粉ひきと小川

実際にはこの第19曲で歌曲集「美しき水車小屋の娘」は終わりを迎える。若者の友である小川は第15曲「嫉妬と怒り」以来影をひそめていた。しかし若者はここで再び友である小川のもとに失意のうちに戻ってきている。この素朴な感情に満ちた曲は若者と小川の対話で構成されている。シューベルトは何も手を下さずに、このように若者の最後にふさわしい音楽を提示するという天才さをまさにここで再認識せざるを得ない。物語の最後の詩は3節に分かれている。第1、3節は若者が語り、第2節は小川の若者に対する慰めであろう。内容は第1節“誠実な心が愛に敗れたら、花園のユリはしぼんでしまう。その悲しみの涙を人間に見せないように満月も雲間に隠れてしまうであろう。天使達も目を閉じてすすり泣き魂を慰める歌を歌うであろう”。第2節、“小川はそして、愛が苦悩の束縛から逃れる時、空には新たな星が輝く。いばらの枝から出た3つの赤白混ざったバラはしぼむことがない。すると天使達は羽を休め毎朝地上に降り立つ”。第3節、“若者が再び小川に語りかける。「ああ、やさしく親切な小川よ、愛することを知っているのか？小川の底には爽やかな安らぎがある。やさしい小川よ、さあ歌っておくれ」とこの曲集の結末には悲しすぎる内容であ

る。この第19曲には小川のみが存在している。若者の精神はもはや死んでいるといっても過言ではない。歌曲集「冬の旅」第15番“からず”との共通性を見出すことができる。テンポ表示はMäßig（程よい速さで）である。♩=約88位であろう。音楽の内容から多くの歌手は遅めに演奏しがちであるが気を付けなければならない。曲の初めは民謡的に単純に始まっている。（譜例1）前奏の2小節のピアノパートは特別に苦悩を表現する必要はない。ただ淡々と流れてその上をメロディーが喋るように進んでゆけばよい。メロディー線は語り調なわりに跳躍、起伏が激しい。歌手のテクニクいかんでは唐突に、がなりやすくなるのは明白であろう。歌手はつぶやく様に、裏声（ファルセット）の多く混ざった声で何気なく歌えればよい。細かい16分音符は急がずに丁寧に、しかもかなりのレガートでテンポを崩さずに歌いたい。第5小節のfis（#ファ音）は決してテヌート（音を保って）したり、強く突き上げたりしてはいけない。（譜例1・○）歌詞は常に4小節ごとになっている。この間歌手は息継ぎはせず1フレーズ毎に歌う。声はメツァ・ヴォーチェ（半分の声）で歌う。歌手はかなり高度なテクニクを持っていないとこの第19曲の本質に近づく事は不可能であろう。第2節は小川の語りである。（譜例2）同

主調に転調し（へ短調からへ長調）小川は失意の若者を慰めようとする時、若者の精神も肉体も既に限界に達していたのである。この部分（1 節から 2 節への移り変わり）を演奏者は明確に表現できれば若者と小川とのコントラストがより鮮明になるであろう。第 1 節のピアノパート（譜例 1）に比べれば第 2 節のピアノパートは急に動きが増している。（譜例 2）第 1 節のピアノパートは若者の聞き役になって、若者を抱擁している。第 2 節では小川は若者に対してより能動的である。しかし小川はあくまで穏やかに流れている。第 33 小節目の“ein Sterlein, ein neues,”（新たな星）（譜例 3）の部分では両者が並列であるので息継ぎはせずに単語に切れ目を付けて歌う。第 37, 38 小節も同様の扱いである。第 41 小節目からは（譜例 4）歌手とピアニストは生き生きと活発に、もちろんピアノパートは第 2 節からは明るく雄弁に演奏するのであるがこの部分はさらに勢いを得たい。詩は“da springen drei Rosen”（3 つのバラは咲き出し）であるが本来ではspringen（飛びはねる）の単語を使わずにblüten（咲く）を使う。この単語の選択により演奏の仕方を吟味しなくてはならない。あくまでメロディーは少し波立った小川の流れに逆らうことなく歌いたい。この 2 節のメロディー線は小川そのもので軽やかな動きと跳躍を繰り返している。しかし決して演奏が大げさになってはいけない。清く、美しく、清純に透明感を持って歌もピアノも演奏する。演奏家にとってかなりの難題であろう。この節には 5 回の高音（G 音・ソ）が出てくるが（譜例 5・○印）これらの高音の扱いは対して重要ではない。4 箇所は語尾の上であり、一か所は“wieder”（再び）という単語にのせてあるので意味としては軽い場所である。演奏家の本質として高音に対してその音

をひたすらに誇張する習性があるがドイツリートに関してはその限りではないことが多い。第 3 節でこの歌曲集の若者の最後のつぶやきが聞こえる。若者は慰めを小川に求め、自分の憩いが小川の底にあることを知る。第 3 節の詩の内容はすでに前述しているので改めてここでは述べない。若者は柔らかいこの美しいメロディーを奏でるのだが、（譜例 6）すべての苦しみから解放させてくれる小川に対して期待感を感じ取ることができる。第 1 節とおなじ弱声で歌うのは若者の本来の表現とは逸脱している。ここでは若者の決意の表れを表現しなければならない。しかも訴えすぎずに。訴えすぎると音楽の内容からバランスを崩し、歌曲集最後のところで全てを台無しにしてしまう。では第 3 節のピアノパートも見てみよう。この部分は若者が語っているのだが、ピアノパートは小川が続いている。小川は若者にやさしく寄り添っているのである。この作曲法上見事な融合はここでもシューベルトの並外れた才能を表している。第 71 小節から 74 小節までがこの第 19 曲目の心理的頂点である。（譜例 7）詩は“Ach unten, da unten, die küle Ruh”（小川の底に安らぎがある。）と歌っている。この箇所は絶対に pp で歌わなければならない。第 75 小節からは音楽は小川の調子 G dur, 長調に転調している。（譜例 8）若者の最後は哀れであるが若者自身にとっては最後の救いになっていることは明白である。ここで若者自ら求めていた平穏をやっと見出したのである。後奏は（譜例 9）若者の気持ちを引き継いで小川の波立ちを揺れながら表現したい。後奏全部を息を止めて弾くのもいい。1 小節ずつディクレッシェンドを掛け冷たく沈んでいく感じを表現したい。最後の和音で若者は入水をし命を絶つ。

シューベルトの歌曲集「美しき水車小屋の娘」

〔譜例 1〕

Mäßig Der Müller

Wo ein treuer Herz in Lie - be ver - geht, da wol - ken die

Li - lien auf je - dem Stei. Da muß in die Wol - ken der Voll - mond gehn, da -

mit sei - ne Trä - nen die Men - schen nicht sehn. Da hal - ten die Eng -eln die

Au - gen sich zu und schluchzen und sin - gen die See - le zu Ruh.

## 〔譜例 2〕

29  
wenn sich die Lie-be zum Schmerz ent-zweit, ein Sternlein, ein neu-es, am  
Him-mel er-blinkt.

## 〔譜例 3〕

37  
ein Sternlein, ein neu-es, am

## 〔譜例 4〕

41  
Da springen drei Ro-sen, halb rot- und halb weiß-.

シューベルトの歌曲集「美しき水車小屋の娘」

〔譜例 5〕

wann sich die Lie-be dem Schmer-ze ent-zingt, ein Sternlein, ein neu-es, am  
 Him-mel er-bleikt, ein Sternlein, ein neu-es, am Him-mel er-bleikt. Da  
 springen drei Bö-ven, halb rot- und halb weiß, die wei-ken nicht wieder, aus  
 Dur- - nen-reis, und die En-geln schneiden die Flü-gel sich ab und  
 gehn al-le Mor-gen zur Er-de, her-ab, und gehn al-le Mor-gen zur

〔譜例 6〕

Der Müller

Ach, Bäch-lein, liebes Bächlein, du meinst es so

〔譜例 7〕

Ach, un-ter, da un-ter, die kühl-ten Ruh-

## 〔譜例 8〕

sch, Bach-lein, lie-bee Bächlein, du sin-ge-nur zu- geb, Bach-lein, lie-bee  
Bächlein, in sin-ge-nur zu-.

## 〔譜例 9〕

## 20. 小川の子守歌

この曲集は第19曲で完結していることはすでに前曲で説明済みである。歌曲集「美しき水車小屋の娘」全曲の最後の有節歌曲である。(全20曲中有節歌曲は8曲) 第5節からなるこの曲は歌手とピアニストにとって最後の難曲である。特別に難しいテクニックを用いて作曲しているというわけではないことは聴衆はすでによく知っている。しかしそんなに単純な話しではない。ピアノのリズムも単調で同じことを繰り返している。表題が「小川の子守歌」であることを踏まえればこの曲の基本的要素は子守歌のリズムからきていることは明白である。常にゆりかごのように揺れている、あ

るいは小川の穏やかな漣のようでもある。(譜例1) テンポ表示はMäßig (ほどよいテンポ) であるがこれは歌手によってかなりテンポの幅が出てくる。♩ = 約50前後になるであろうか。Mäßigとは指示されているのだが実際のテンポはかなりゆっくりである。そして演奏にあたっての拍子を見落としてはならない。この曲は2分の2拍子である。感覚的には4分の4拍子で演奏してしまいがちであるがそうすると当然ゆりかごが自然に揺れずごちなくなってしまう。要注意である。歌詞の内容は第1節“おやすみ、おやすみ、その目を閉じよ！ 疲れた若者よ、ここが君の家だ。真実はここにある。海が小川を迎えてくれるまで” 第

2節“青いガラスの小部屋で柔らかい褥で涼しく眠らせてあげよう。子守唄を歌えるものは集まってこの若者をあやしておくれ。”と。第3節、“緑の森から狩人の角笛が響いてくる時、僕は若者の周りで水音をたてよう。青い花たちよ！水の中を見るな。眠っている若者を妨げるから。”第4節は“意地悪な娘よ、この水車小屋の小径から去っていけ！おまえの影が若者の眠りを妨げるから。きれいなハンカチを投げ込んでおくれ！若者の目を覆い隠すから。”と。最終節は“おやすみ、万象が目覚めるまで喜びや悲しみの夢を見果てるまで眠れ。満月が昇り霧が消え、高い空はなんと広々としていることか”と歌っている。これは若者の死についての鎮魂であるが、詩自体はKnaben（少年）と表現されているが、若者に対する子守歌を少年に例えているのである。この内容はこの歌曲集第19曲目までの内容を集約している。小宇宙的な感がある。音楽の持つ動きは単純なりズムの繰り返し（♪♪♪、♪♪♪）、自然な和声の流れ等が、聴衆が自意識とは別なところで自然に覚醒する魔力を持っている。シューベルトはこの第20曲目で新たな才能を提示している。そして（譜例1・○印）曲頭から9小節までのソプラノH音（シ音）、第10小節目はGis音（#ソ音）、それ以後第15小節目までのE音（ミ音）は教会の鐘の音である。川の流れに鐘の音。まさに若者に対する鎮魂歌である。この鎮魂歌を聞きながら若者は安らかな眠りにつくのである。第16小節目から音楽に変化が見られる。構成も厚く、（譜例2）和音が厚くなり響きも厚くなって曲想に変化が見られるようであるが本質的には変わっていない。この第16小節からピアノパートの第1、3拍には>（アクセント）がついている。前半の典型的な小川の子守歌の揺れから心の高揚と同時に波も高くなってきている。そのピアノパートに乗っているメロディー線を見

てみよう。（譜例3）第17小節目の○印の裝飾音は前打音として正確に扱わなければならない。しかし本来裝飾音の意義を考えると、第19小節目の第3拍目と同じ表現であることがわかるが（譜例4）譜例3はこの曲の頂点であるからしてきつめの表現で、譜例4はレガートな丸い柔らかな表現と区別したい。すると自ずから第20小節目の>（アクセント）を付けて演奏することが自然に感じるようになる。第3節はホルン風にはっきりと演奏する。第16小節からは第14曲目「獵師」を聴衆の記憶の中から思い起こさせる如くに印象的に演奏したい。あたかも小川の近くの森から聞こえてくるような感じで。第4節目の出だし“hinweg, hinweg”（去っていけ、去っていけ）の箇所は第1、3拍目は四分音符であるが（譜例5）言葉を生かすために（譜例6）の様に短く八分音符、八分休符に歌うと演奏はより効果的になる。12小節から15小節までは極力Pで演奏する。それぞれの詩の内容は前述しているので参考にしたい。第5節については小川は限りなくやさしく、包容力を持って、メロディーはその上に自然に乗るだけで十分である。音量はあくまでメロディーは弱声でピアノは弱音である。5節にわたって同一な音楽を繰り返すほど演奏家にとって難題なものはないと前述したが、演奏家は必ずそれぞれの詩の内容に忠実に表現しなければならない。微妙な個所にも注意を怠ってはならない。全体を通して20曲を歌い通した最後の最後がこのような弱音で終止するという事は歌手とピアニストのテクニック、音楽的技量に計り知れないものを要求されていることを演奏家のみならず、聴衆も思い知る難しい歌曲集である。全曲を演奏し終わった時、演奏家は聴衆に対し物語の全体を心地よい響きの中に包んで終わりたい。

[譜例 1]

*Mäßig.*

1. Gute Ruh, gute Ruh! tu die An - gen auf gu - te  
 2. bet - ten dich kühl auf wei - chen Pfühl, will -  
 3. Jagd - horn schallt aus dem grü - nen Wald, wenn ein  
 4. weg, hin - weg von dem Müh - lan - steg, hin -  
 5. Nacht, gu - te Nacht! bis al - les wacht, - gu - te

1. Ruh, gu - te Ruh, tu die An - gen auf Wand - rer, du mü - dich du  
 2. bet - ten dich kühl auf wei - chen Pfühl in dem blau - en Kri -  
 3. Jagd - horn schallt aus dem grü - nen Wald, will ich sau - sen und brau - sen wohl  
 4. weg, hin - weg, bö - ses Mäg - de - lein, daß ihn dein Schat - ten, dein  
 5. Nacht, gu - te Nacht! bis al - les wacht, schlaf aus dei - ne Freu - da, schlaf

1. bist zu Haus, Die - Tren ist hier, sollst  
 2. stal - le - nen Nämmerlein Her - an, her - an, was  
 3. um dich her, Blickt nicht her - ein, blau - e  
 4. Schat - ten nicht weckt! Wirf mir her ein dein  
 5. aus dein Leid! Der Voll - mond steigt, der

11

1. He- - gen bei mir, die... Trenn ist hier, sollst lie- - gen bei mir,  
 2. wie- - gen kann, her- - an, her- - an, was wie- - gen kann,  
 3. Blü- - me - lein, blick nicht her- ein, blau- e Blü- - me - lein!  
 4. Tüch- - lein fein, wirf mir her- ein dein Tüch- - lein fein,  
 5. Ne- - bel weicht, der Voll- - mond steigt, der Ne- - bel weicht.

〔譜例 2〕

12

〔譜例 3〕

13

1. bis das Meer... will trin - ken die Bäch - lein aus, bis das  
 2. wo - get und wie - get den Kna - ben mir ein,  
 3. ihr macht mit dem Schlä - fer die Träu - me so schwer, ihr  
 4. daß ich die Au - gen ihm hal - te be - deckt,  
 5. und der Him - mel da u - ben, wie lat er so weit, und der

[譜例 4]

1. Meer — will trin - ken die Bäch - lein, — ach  
 2. we - get und wie - get den Kus - sen mit stül  
 3. macht mei - nem Schlä - fer die Träu - me so schwer,  
 4. daß ich die Au - gen ihm hal - te he - steckel  
 5. Him - mel da ö - - ben, wie ist er so weiß

[譜例 5]

4. hin - weg, hin - weg

[譜例 6]

4. Hin - weg, hin - weg

## **The Schubert Song Cycles “Die SchöneMüllerin” Vol.7** **—Performance and Interpretation for the Singer and Pianist—**

Nonogaki, Fumishige\*

声楽の分野では演奏が全てである。その演奏の助けとして歌手とピアニストの為の演奏法の解釈、分析が必要であり、重要となってくる。現在、声楽の分野ではそのような文献がまだ不十分である。特にその中でもドイツ歌曲の分野では世界で最も優れた詩人の作品に世界で最も優れた作曲家が音楽をつけていることは周知の事実である。今回はシューベルトの三大歌曲のひとつ、歌曲集「美しき水車小屋の娘」全曲を取り上げた。自分自身ドイツ歌曲専門の歌手であるため、ドイツの最高芸術作品であるドイツ歌曲に注目している。

キーワード：シューベルト, ヴィルヘルム・ミュラー, 美しき水車小屋の娘, 歌曲集